

富士ダイス熊本
南関町に新工場
E V需要増対応
産業用工具・金型製造販

売の富士ダイス（東京）は南関町の熊本製造所に、合金素材をつくるための冶金棟を新設する。20日、県庁で同町と立地協定を結んだ。既存の冶金棟が老朽化していることや、電気自動車（E V）の部品向け金型の需要が増えていることから、新棟建設で需要に対応する。

同社は、超硬耐摩耗工具で国内トップのシェア。熊本製造所は自動車部品の金型を主に製造している。敷地内に平屋の新棟（床面積約2千平方メートル）を建設。2023年4月の操業開始

を見込む。地元から新たに5人を雇用する。投資額は18億円。



熊本製造所での冶金棟新設に向けて、南関町と立地協定を結んだ富士ダイスの久保井恒之社長（中央）ら。20日、県庁

久保井恒之社長は「電気自動車のモーターやバッテリー向けの需要が増えており、付加価値の高い製品を供給していきたい」と述べた。半導体関連の金型や素材も製造しており、台湾積体回路製造（T S M C）が菊陽町に工場を新設することについて「今後、半導体関連の需要増も期待している」と話した。

富士ダイスは1949年創業。2021年3月期の連結売上高は142億円、国内外のグループ従業員数は1139人。

（山本文子）